

平氏の政治と源平の争乱

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

平清盛はどのように力をつけ、平氏はなぜほろんだのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 平清盛と平氏の政治

武士の太政大臣

保元の乱

1156年、天皇と上皇の対立から起こった争い。武士の力で勝敗が決まった。

1156年、天皇と上皇の対立に藤原氏の争いがからみ、源氏や平氏の武士が戦う**保元の乱**が起こった。続く1159年の**平治の乱**では、**平清盛**が源義朝をやぶった。どちらの争いも武士の力で決着がつき、武士の存在感は大きく高まった。

平清盛

1167年、武士として初めて太政大臣となった。

1167年、清盛は武士として初めて**太政大臣**となり、娘を天皇のきさきにし、生まれた子を天皇に立てた。一族も高い官職につき、摂関政治に似たやり方で力をもった。また宋(中国)との貿易に力を入れ、兵庫の港(大輪田泊)を整えて**日宋貿易**をさかんにし、大きな利益を得た。平氏は安芸(広島県)の**厳島神社**をあつく敬った。

日宋貿易

平清盛が兵庫の港を整えて進めた、宋(中国)との貿易。

できごと	内容
保元の乱(1156年)	天皇と上皇の対立。武士の力で勝敗が決まる
平治の乱(1159年)	平清盛が源義朝をやぶる
太政大臣(1167年)	平清盛が武士として初めてつく

2 源平の争乱と平氏の滅亡

平氏の滅亡

源頼朝

源義朝の子。伊豆に流されていたが、1180年に兵を挙げた。

平氏が朝廷の高い官職を一族で独り占めし、反対する者をおさえつけたため、貴族や寺社、各地の武士の間に不満が高まった。1180年、平治の乱ののち伊豆(静岡県)に流されていた**源頼朝**が兵を挙げると、各地の武士も次々に立ち上がり、平氏との戦い(源平の争乱)が広がった。

源義経

源頼朝の弟。平氏との戦いで活躍した。

頼朝は鎌倉にとどまって東国の武士をまとめ、弟の**源義経**らを送って平氏と戦わせた。1185年、平氏は**壇ノ浦の戦い**(山口県)でほろんだ。頼朝は関東の**鎌倉**を本拠として、武士による新しい政治のしくみを整えていった。

壇ノ浦の戦い

1185年、平氏がほろんだ戦い。今の山口県で行われた。

問いへの答え

平清盛は、保元の乱と平治の乱に勝って力を示し、1167年に武士として初めて太政大臣となった。娘を天皇のきさきにしてい族で高い官職につき、日宋貿易で大きな利益を得た。しかし平氏が官職を独り占めたため不満が高まり、1180年に源頼朝が兵を挙げ、1185年の壇ノ浦の戦いで平氏はほろんだ。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

